

# 大阪市中教研会報

「時代を生き抜く  
ための学びへ」



大阪市立中学校長会

会長 一 安 修 美

我が国における今後の教育の方向性が、2040年頃の社会の姿、社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0」や「人生100年時代」の到来を見据えていることは周知のところです。IoTの進展やAIなど先端技術と社会が高度に融合し情報が社会基盤を支える道具になる世界や、現在の中学生の半数が107歳より長く生きると推計される世界一の長寿社会の到来。そんな社会を子どもたちが生き抜いていけるよう学びが変わっていきます。加えて今般の新型コロナウイルスの感染拡大などから先行き不透明で予測困難な状況と対峙することを余儀なくされました。

文部科学省は平成最後の学習指導要領改訂の主軸を「主体的・対話的で深い学び」と「カリキュラム・マネジメント」としましたが、いずれも知識偏重から生きていくために必要な実践的な学びへの移行を示唆しています。また、高度に情報技術が進歩した時代を迎えるとする今、求められる力を「文章や情報を正確に読み解き対話する力」、「科学的に思考・吟味し活用する力」、「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」とし、より人間らしい力を身につけさせていくことが重要であるとしています。

本年度末までに「GIGAスクール構想」による1人1台パソコンの配備が完了し順次、学習システムが整備されていきます。今後、教育現場においても急速に進展するこれらのテクノロジーに習熟することが必須となります。あくまでも授業改善の手段であって目的ではありません。学びのスタイルの大きな変革期にあってこそ、教育の目的である人格の完成、世のため人のためにという志の涵養を見失わないことが、教育の道を踏み外さないことと心得ます。

最後になりましたが、この間の大阪市立中学校教育研究会のご尽力に敬意を表しますとともに、今後の益々のご発展を心より祈念申しあげます。また、ご指導・ご支援賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に深く感謝申しあげます。

No. 136

編集者 大阪市立中学校教育研究会

発行人 大阪市立中学校教育研究会

会長 井 寄 芳 春

発行所 大阪市立中学校教育研究会

大阪市立横堤中学校

TEL 6911-1361

「学校ならではの学び」  
の構想と実践



大阪市立中学校教育研究会

会長 井 寄 芳 春

昨年は長期にわたる臨時休業の後、授業時数の確保や学校行事の見直し等、教育課程の再編を余儀なくされました。感染症への予防と警戒を徹底するとともに、子どもたちの「学びの保障」に努め、教育活動の質を高めていくという課題に向き合う日々が続いています。さらに、4月からの新学習指導要領の完全実施に向けての準備も進めていかなければなりません。

先が見通せないまま、難題が山積する状況において、10月19日の全市研究発表会では、各教科・領域において、リモート授業、録画ビデオの活用、講演会、研修会、誌上発表等、多様な形態での研究活動を展開していただきました。「新たな日常」のもとでの研究発表会のあり方や方法について、数多くのすぐれたモデルをお示しいただきましたことに敬意を表したいと思います。

さて、今年の1月26日に、中央教育審議会の初等中等教育分科会より「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」が出されました。コロナ禍のもと、再認識された学校の役割として、「学習機会と学力の保障」だけでなく、「全人的な発達・成長の保障」や「身体的、精神的な健康の保障」などが示されています。教育活動における様々な場面で、個と集団の関連を図るとともに、知・徳・体をバランスよく、一体的に育むことは、わが国の学校教育の特色であり、強みといえるでしょう。

この「答申」からは、「学校ならではの学び」を構想し、実践していく上で、重要な示唆を読みとることができます。課題解決に向けてのヒントは学校現場にあります。自校の特色や強みに光を当てるとともに、それらを丁寧にすくい上げ、幅広く生かしていくことが、質の高い教育活動につながっていくものと考えます。困難な時代だからこそ、自校を基盤とした、主体的・協働的なカリキュラム・マネジメントが求められているのではないでしょうか。

最後になりましたが、本年度も、各研究部長様、各ブロック委員長様をはじめとする専門委員、会員の皆様方に多大なご尽力をいただきましたことに深く感謝申しあげます。また、ご指導・ご助言を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に厚くお礼申しあげます。

# 部門より研究活動・成果について

## 国語部

### 「生きる力」としての国語力の育成

—自分の思いや考えを深める言語活動の充実—

池尻一郎(井高野中)

3月からのコロナ禍で、学校は5月まで臨時休業、その間は専門委員会等の会合もできない状況であった。臨時休業中も分散登校への対応、休業中の課題の作成・配布・回収・点検、オンライン授業への取り組みなど、各校での先生方の業務は多大であった。

学校再開後も、校内の消毒などの感染症対策による業務の増加する中、各校では学習の遅れを取り戻すことが最優先事項であった。

また、感染症対策の中で「話す・読む(音読する)」などの言語活動が制約される中、この研究主題を深める授業実践を進めていくにあたって、先生方の大きな創意工夫があったと考えられる。

また、教育委員会指導部の組織改編で中教研も4つの新教育ブロックへの改編となり、役員・専門委員を決めるのが精いっぱい、新体制の構築もままならなかった。

新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から8月の各ブロックにおける研究発表会はすべて中止となった。

10月の全市研究発表会についても、オンラインはもちろんどこかに集まつての開催にはクリアすべき課題が多く、国語部においては全体での研究発表会は実施せず、各学校での「研究の日」とした次第であり、各校において、研究主題に沿つた教材研究や授業研究をしていただいた。

書写については、中文連書写部の活動を支援し、「『生きる力』を育む書写教育」を研究主題に取り組みを進めた。

9月に講師の先生をお招きし、生徒向けの講習会(行書や篆刻)を実施した。

10月の総合文化祭では、作品発表や相互鑑賞の機会として作品を展示し、自尊感情を高める場として書道パフォーマンスの舞台発表に取り組んだ。

今後は、これまでの研究や実践を継続かつ充実させるとともに、新型コロナウイルス感染症の予防に努めた「新しいスタイルの研究発表会」、リモートやオンラインでの授業・研究発表会の実施に向けた取り組みを進めていかなければならないと考える。

## 社会部

### 持続可能な社会の形成者として、見方・考え方を深める社会科学習

鈴木慶彦(野田中)

・研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行った。

研究にあたっては、龍谷大学法学部准教授 中本和彦様にご講話、ご指導・ご助言をいただいた。

・全市一斉研究発表会は、主体的・対話的な学びの活動の中で、問い合わせと資料を活用して学びを深める取り組みについて、研究成果を発表した。公開授業は、授業ビデオをDVDに複写保存し、市内各中学校に事前に送付して視聴できるようにした。なお、このDVDは、生徒の画像や名前が映っていることから、後日、すべて回収した。発表会当日は、事業の説明の後、DVDを視聴する時間を確保したうえ、中本和彦准教授の講演をTeamsを使って各中学校に配信した。

全市の社会科教員が公開授業を直接、参観できなかったこと、一堂に会して研究協議できなかったことは残念であったが、通信ソフトを用いた初めての試みは、試行錯誤しながら、まずまず成功であった。

・全国中学校社会科教育研究大会高知大会並びに近畿中学校社会科教育研究大会滋賀大会が中止となったが、研究の一端を冊子により共有した。

・大阪府中学校社会科教育研究会・堺市立中学校教育研究会・近畿中学校社会科教育研究会との連携・交流を深めた。

・大阪市立中学校総合文化祭の一環として、生徒研究発表会(展示部門・舞台発表部門)を実施し、会誌「みおかくし」No.6 1を発行した。

・会誌「社会科通信」を発行し、全校に配信した。

## 数学部

### 未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

高橋哲也(東中)

#### ◇全市研究発表会の概要

1 オンラインによる公開授業(14:00~14:50)

1年「データの活用」 授業者 … 玉川智行(佃中) 橋本裕生(佃中)

2年「連立方程式の利用」 授業者 … 竹久幸志(蒲生中) 野崎智亨(天満中)

1年「比例・反比例の利用」 授業者 … 永安仁詩(夕陽丘中) 大迫裕也(瓜破中)

2 全体会(15:10~16:30)

「新しい学習指導要領の完全実施に向けて」

## 【ご講演】

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官  
文部科学省 教科調査官 水 谷 尚 人 様

もと、数学部長・大阪市立中学校長・教育センター首席指導主事  
坂 恵 津 子 様

## ◇ 評価（成果と課題）

数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」として取り組み、研究発表会は、Teams を活用したオンラインによる 3 つの公開授業と全体会で構成しました。コロナ禍の影響により、例年通りの活動が行えず、制限のある中でしたが、大阪市教育委員会、教育センター等の関係の皆様のご指導・ご助言、ご支援を賜り、創意工夫を凝らして、研究発表会を実施することができました。ここに関係の皆様へ厚くお礼申しあげます。

さて、昨年度の研究発表会は近畿算数数学教育研究発表会と兼ねて実施し、近畿一円より多くの参加者に大阪にお越しいただき開催することができました。そこでは、一昨年度の研究発表会で、國學院大学 田村学教授（前文部科学省初等中等教育局視学官）と文教大学 永田潤一郎教授（同教育課程数学科調査官）から頂いた貴重な指導助言を踏まえた授業づくりにチャレンジいたしました。また、指導助言では、大変厳しいお言葉の中に温もりのあるご指導を頂くことができました。

今年度の研究発表会は、Teams を活用し、3 つの公開授業を佃中学校・蒲生中学校・夕陽丘中学校の 3 校から配信しました。また、全体会は、夕陽丘中学校に、文部科学省の教科調査である水谷先生と、数学部のもと部長である坂先生をお招きし、「新しい学習指導要領の完全実施に向けて」のテーマで貴重なご講演を頂くことができました。

公開授業では、これまでの研究発表会の伝統を継承しつつ、新しいスタイルを模索するなかで、オンラインで行うことができました。いずれの授業も、数学部として、脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりに取り組み、成果を積み上げ、大阪市の子どもたちの学力向上に一石を投じられたのではないかと考えています。

一方で、オンラインでありますので、すべての中学校の管理職の先生、数学科主任の先生に、事前のアンケート、ID の提供、テスト配信の受信等々、数々のお手数をおかけしましたが、ご理解とご協力を賜り、当日を迎えることができました。ここに改めまして厚くお礼申しあげます。

全体会では、学習指導要領完全実施の 5 カ月前に、教科調査官から直接、ご講演を頂けたことは、すべての数学の教員にとって大きな財産になったと考えます。事前に頂いていた質問のすべてにお答え頂くことには時間の制約があり無理ではありましたが、満足していただける内容であったのではないかと考えております。これは、現場の先生方の質問を水谷先生にうまくエスコートして頂きました前部長の坂先生のおかげです。ありがとうございました。

今後は、今年度の成果と課題を整理し、数学部の伝統である授業づくりを軸に、研究部の活動を継続してまいります。引き続き、関係の皆様の、ご理解とご協力、ご支援をお願いいたします。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

## 理 科 部

## 主体的な対話を通し、未来を担う

## 科学的な思考・表現力を育む理科教育

渡 邊 哲 朗 (茨田 中)

今年度はコロナ禍で例年とは違う研究となった。専門委員会を生徒理科研究発表会の運営およびその成果である「私たちたちの結晶」の作成と大阪市研究発表会での公開授業づくりの 2 つのグループに分け、研究を進めた。

生徒理科研究発表会は「プレゼンテーションの部」「発明工作」は取りやめ、「実験・研究」のみの開催となった。しかしながら、力作が多く内容に富んだものが多かった。優良な研究は大阪市立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出品した。

大阪市教育研究会が「研究の歩みを止めない」との方針を示し、理科部として研究会を行うべく従来の公開授業方式ではない方策を模索した。7 月の大阪市理科部専門委員会において、研究授業を撮影し、区ごとの会場においてその映像を流し、その後研究討議をする方法をとることとした。

以後、9 月中旬まで数回の指導案の検討会、撮影方法の検討を経て、10 月初旬の二日間撮影を行い、大阪市研究発表会を行った。アンケートでは全市研究会が「充実していたか」について 94% の肯定的な回答を得られた。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

## 音 楽 部

## 未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

有 田 伸一朗 (大淀 中)

心の教育を担う教科「音楽科」では、新学習指導要領の全面実施に向けて昨年度より研究主題を一新し、令和 5 年度近畿音楽教育研究発表会に向け、今年度 4 つの研究班を立ち上げた。

コロナ禍ではあるが、年間を通して音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」の達成に向けて研究・研修を行った。

「全市一斉研究発表会」では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4 つの研究班に分かれて研究発表を

行い、新学習指導要領を見据えた実践の発表を通して音楽の学力について考え、コロナ禍における研究班の現在の取り組み状況を確認した。特に、飛沫の飛散防止に留意した歌唱指導、器楽指導の在り方、ICTを活用した授業内容の工夫について意見交流し、普段の授業の悩みや疑問を共有することだけでなく、自校の課題解決や自己の授業の振り返りにつながる、充実した研究発表会を開催することができた。

一方、府中音研と連携した夏期研修会では、文科省初等中等教育局教育課程科教科調査官 河合紳和先生による、新学習指導要領の実施直前における「コロナ禍に伴う、新しい音楽科教育の在り方」という講演を通じて、新しい生活様式を踏まえた指導方法・評価方法等の工夫改善につなげる研修を実施した。また、教員の授業力アップに向けて、和楽器伝承家 堀江秀行さんによる「“和”から“WA”へ 和のアップデート」という講演から和楽器の指導法と授業づくりを学んだ。

また、11月には「音楽部文楽研修会」を国立音楽劇場で行い、文楽についての各種レクチャーを受け、文楽の指導法と授業づくりについて学んだ。

今後は、2年後の近畿音楽教育研究大会に向けて、各領域における研究をさらに深めることのできる体制づくりを構築し、音楽科組織として音楽教育の質の向上と教員の実践的指導力の向上に取り組む。

### 美術部

### 社会とつながる美術教育をめざして

～未来を切り拓く子どもたちの育成～

石川文子(宮原中)

新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、長期間の臨時休業が続き、その後学校が始まってからも、先行きを見通せない状況に子どもたちは、不安やストレスにさらされることとなりました。また、それぞれの学校においてはこれまでに経験したことがないような苦労や困難に対応される日々が続いています。そのような予想困難な状況の中においても学校は何を教えるべきなのか、子どもたちにどのような力をつけるべきなのかを追求しなければなりません。来年度、新学習指導要領は移行期間を経て、本格実施となります。本来なら次のステップへと足場を固める時期ですが、思うように進められない現状にもどかしさを感じました。

残念ながら、本研究会美術部においては、予定していた研究の一部を中止することになりましたが、昨年度に引き続き『社会とつながる美術教育をめざして』～未来を切り拓く子どもたちの育成～を研究主題に活動を進めてきました。子どもたちが活躍する20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。今年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組むために全市研究発表会、各種展覧会（総合文化祭・美術展・美術部展 他）の運営において、さらに充実した取組を進めることができました。厳しい状況下ではありましたが、いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

### 保健体育部

### 保健体育授業における学習意欲を高める

山岡伸一(三国中)

- 新学習指導要領を踏まえ、「主体的、対話的で深い学び」の実現のため保健体育科の授業づくりの研究を継続的に進めている。
- 全市一斉研究発表会は、今年度、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止としました。
- 全市研究発表会において伝達講習会を予定していた、5月の「体育・保健体育指導力向上研修」、11月の「全国学校体育研究大会」は中止となりました。
- 11月大阪府立西野田工科高等学校による「集団行動演技発表会」は中止になりました。
- 大阪市教育センターにおける中学校保健体育科新任教員研修eラーニング動画作成に協力し、専門委員の研修を深めました。

### 技術・家庭部

### いのち輝く未来社会を実現(創造)する技術・家庭科教育

～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～

山口博功(真住中)

- 全市研究発表会を誌上発表とし、家庭分野「高齢者の気持ちに寄り添った関わりのできる生徒の育成」の研究発表、指導案、ワークシートと、技術分野『D情報の技術』「(3)計測・制御のプログラミングによる問題解決」について、「お掃除ロボットプログラミング～ビュートレーサを用いた計測・制御学習の工夫～」の学習指導案を配信した。
- 第59回近畿地区中学校技術・家庭科研究大会(和歌山大会)での、家庭分野発表「高齢者の気持ちに寄り添った関わりのできる生徒の育成」～ほっこり会話でつながる社会～の誌上発表を通じて研修を深めた。
- 第20回創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会を開催した。
- 大阪市立中学校総合文化祭に参加した。

## 英 語 部

## 英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

- 5 領域のコミュニケーション能力を総合的に養う -

井戸本 崇志 (喜連中)

本年度の全市研究発表会は、消毒・検温・ソーシャルディスタンスの確保など、コロナウイルス感染症予防対策を万全に行い、阿倍野区民センター大ホールにおいて講演のみ行った。講師としては、上智大学 非常勤講師の 北原 延晃 様をお招きして『『もう一度中学生をやりたい』と大学生に言わせた『生徒も教師も楽しく力のつく授業』』と題して、熱のこもったご講演をいただいた。また、咲くやこの花中学校 宋 美香 先生から実践報告もあり、英語科教員290名を超える参加の中、実のある研究発表会になった。

## 道 德 部

## 多面的・多角的な視点で考え、議論する道徳教育の創造

- 想像力を豊かにする発問の工夫 -

安藤 幸人 (東陽中)

- ・道徳の授業（年間35時間）を計画的に実施できるように大阪市教育委員会・大阪市教育センターと連携して、研修を深める。
- ・道徳教育推進委員会を中心に全市130校における道徳教育の深化・充実を図る手立てを提示する。
- ・事務局体制を整備し組織づくりを進めるとともに、全市一斉研究発表大会等の充実を図る。
- ・全市一斉研究発表会 10月14日(木) 大阪市立東陽中学校  
授業者：加治馬 謙 先生 資料名：ヨシト

- ・道徳部主催で道徳の土曜学習会【5回実施】（東陽中学校）
  - ・道徳教育推進委員会は、4つの教育ブロック毎に開催【3回実施】
  - ・大阪市「道徳教育の更なる充実に向けた推進会議」モデル校8校と全市指定校1校で校内研修、公開授業・研究協議を計画実施し、校内の活性化を図った。
- 令和元（平成31）年度「特別の教科 道徳」としての授業が始まり、各校が教科書を中心に授業づくりを進めている。学習指導要領に則り、各校が量的確保と質的転換をめざし道徳の授業を実践している。

## 特別活動部

## 生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進藤 文代 (白鷺中)

全市研究発表会では、キャリア教育と生徒会活動について発表し研究を進めた。

## ・キャリア教育ご講演

「子どもたちの生き方を育成するキャリア・パスポートの活用法」

「キャリア教育リーフレットづくり」

「令和2年度日本キャリア教育学会 第42回研究大会報告」

報告者：夢みらい工房代表・NPO法人JAE所属

（認定キャリア教育コーディネーター）角野綾子

大阪市立白鷺中学校（認定キャリアカウンセラー）指導教諭青木信一

キャリア・パスポートとは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（作品集）である。行事や学期、学年といったそれぞれの節目節目で記入し、「児童生徒（本人）の視点」だけではなく、「教員の視点+対話的な関わり」を交えて、学期、学年、校種をまたいで引き継いでいき、さらに、「保護者の視点+対話的な関わり」も交えていくことで活用される。児童生徒はキャリア・パスポートを整理することで、「自己理解」を深めることができ、自分の興味・関心や個性を理解するとともに、自分の将来の生き方や生活について見通しを持つことができる効果を期待でき、教師は「生徒理解」を深めることにつながる取り組みであるといえる。また、この研究については、がんばる先生研究支援を受け、オンラインではあるが令和2年度日本キャリア教育学会 第42回研究大会報告に参加し、キャリア・パスポートの活用法について研究を進めた。分科会では、キャリア教育の一例として、白鷺中学校で取り組まれた「笑育（わらいく）」について発表した。松竹芸能と協同し、言葉の大切さやコミュニケーション能力、人前で発表する力を育むことができたことが生徒の感想文などから多く挙げられた。生徒の自己理解および自己管理能力の育成に成果がある取り組みであるといえる。

## ・生徒会活動

東大阪市立中学校生徒会交流会実践報告

「ONE TEAM 東大阪市立中学校生徒会25」

東大阪市立布施中学校教諭 中西 孝仁・東大阪市立意岐部中学校教諭 八田 普江

東大阪市生徒会が取り組まれている実践報告を発表していただき、本市で目標としている全市生徒会交流会開催に向けて、多くのことを学ぶことができた。今年のブロック生徒会交流会は、大阪市が4ブロック化され、初めての生徒会交流会であった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場を分け、Teams（チー

ムズ) でつなぐオンライン会議で実施することになった。生徒会交流会の新たな実施方法としておこなうことことができたのは大きな収穫といえるだろう。大阪市教育委員会より依頼を受け、1月 23 日に開催される大阪市スマートサミット開催に向けて、生徒会交流会では大阪市のネット依存傾向の問題点と、スマートについて学校で取組や今後取り組みたいことについて発表した。各生徒会は、事前に大阪市の小中学生に向けて行ったアンケート結果のグラフを読み取り発表することに取り組んだ。生徒のグラフを読み取り考察を深めて発表する姿に、「資料の活用能力」の高さを感じた。スマート依存による悪影響を考えることから、①学校内(生徒間)への提言「啓発ポスターの作成」「クラス間でネット利用時間の集計を比較する」や ②保護者への提言「スマート使用の家族内でルールを決める」③企業への提言「中学生向けスマートの開発」といった様々な意見が挙げられた。生徒会交流会を通して、考えられた取り組みを各校で実現に向けて進めていくことで、生徒会活動の活性化および生徒の主体性の向上につなげることが期待できる。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

### 生活指導部

#### 生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する 屋 島 豊 市 (十三中)

研究発表：「温故知新～そのマニュアルに心はあるのか～」

東中学校 教諭 西 垣 一 範

学校で日々起こる問題は多様化し、既存の指導マニュアルや自身の過去の経験からの指導だけでは対応することができない。今、大切にしなければならないのは、教師が目の前の指導に「心」を通すことであり、その姿こそが指導を生徒や保護者的心に届ける最善方法になる。

講 演：『不登校生への自立を促す指導について～見守る・寄りそうとは何か～』

NPO 法人 N I W A 相談室 代表 丹 羽 豊

不登校問題をテーマに、不登校生を抱える保護者と向き合い、カウンセリングを通して見えてきたもの。不登校生には大きく分けて、「深海魚様相時期」「自宅生活の快適さ復活時期」「明るい不登校生活時期」の 3 つの段階がある。膨大な数と時間のカウンセリングに裏付けされた、不登校生とその保護者に対するアプローチ方法をご教授いただいた。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

### 特別支援教育部

#### 子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして 柿 花 正 信 (梅南中)

##### 研究活動について

「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」を研究主題に、新しい時代に対応する特別支援教育を目指し研究活動に取組んだ。特に今年度は 8 ブロック制から 4 ブロック制への移行があり、専門委員の改編をはじめ、特別支援教育部全体の組織が一新された。

コロナ禍のなか、様々な計画の変更を余儀なくされたが、全市研を講演会という形で実施することができた。参加者を制限せざるを得ないという異例の事態の中にも関わらず予想を超える多くの参加者があった。

インクルーシブ・フレッシュ研修会もコロナ禍のなか、思うように実施できなかったが、10月より月例で開催できるようになった。毎回 10 名を超える参加者があり、若手教員を中心に熱心な研修活動を行うことができた。

##### 交流行事について

残念ながら大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して実施される合同うんどう会、ふれあいステイ、ふれあいディキャンプ、生徒さくひん展の全ての全市的行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。

##### そ の 他

小中連携会議等幼稚園、小学校との連携を進める取組は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

### 保健養護部

#### 養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

吉 田 直 子 (新豊崎中)

- 研究主題に基づき、各ブロックにおいて共同研究を進めています。

全市研究発表会では、旧第 8 ブロック共同研究「学校における救急体制を考える～アクションカードを活用して～」を発表されました。大阪市では採用 10 年以下の教員が全体の半数を超える状況になり、養護教諭だけでなく、全教員が学校の救急時の対応を「見ればわかる、動ける」アクションカードを活用して、校内の救急体制の確立を目指し、研究をすすめられました。

- 保健養護部では、今年度まで旧ブロック体制で活動してきましたが、令和 3 年度より新しい教育ブロックでの活動をスタートさせます。校数が多くなるため、それぞれのブロックをさらに 2 分割し、8 ブロック体制とします。今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

## 情報技術部

## 時間割作成・調整業務の先進的システム化の考察

近 藤 正 宏 (本庄 中)

## ◇研究発表の概要

(情報教育部門・統計教育部門合同発表として実施)

アンケート集計についての先進システムの紹介

桜宮中学校 西 伸 之

時間割の作成と調整に役立つシステムと、その活用方法の提言

新東淀中学校 増 田 卓 三  
友渕中学校 山 崎 真 史

## ◇問題点・その他

今回、本部のご尽力により、パソコンを必要な台数を活用できる環境（第一端末室）を使用させていただけたことが運営上、非常に大きなポイントとなった。

成果としては、潜在的に難業務と考えられている時間割の作成・調整についての先進システムが多くの教員間で歓迎を持って受け入れられたことである。

本部会においては、来年度も多くのパソコンを活用しての研究発表を行う可能性があるので、この点について早期より環境整備していきたい。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

## 教育メディア部

## 「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

—学校図書館・放送・視聴覚教育を通して—

田 村 敬 子 (松虫 中)

放送・視聴覚教育部門では、今年度、NHK 杯全国中学校放送コンテストが中止されたため、大阪放送教育研究協議会が独自で、大阪府市合同放送コンテストを開催することになり、本部門も中心的に運営を行った。予選会を大阪市立市岡中学校で、決勝大会を桃山学院中学校で開催し、立命館大学の仲山豊秋教授よりご講評をいただいた。また、今年度は「放送教育研究会全国大会 大阪大会」が開催され、本市では、大和川中学校で公開授業・研究協議会を実施していただいた。

図書館教育部門では、本年度は研修会・研究集会等が中止になったが、年間を通じて発行している「もっと図書館！」を通じて、学校図書館における各校の取組の様子などを情報発信し、それぞれの活動の参考にすることことができた。10月に開催された研究会では、四天王寺大学の山田幸和先生に「生徒が読書好きになる味見読書」というテーマでご講演いただき、参加者で「味見読書」のワークショップを行った。毎年行われている読書感想文と読書感想画コンクールを本年度も実施した。

———— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* ————— \* —————

## 教育課題部

## 未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成

西 本 晃 (築港 中)

研究主題のもと、全市研究発表会において、大阪大学大学院教授の志水 宏吉先生から「大阪の学校が目指してきたもの」と題して講演をいただきました。

- ・私が考えたこと・その1—学力の樹
- ・私が考えたこと・その2—スクールバスモデル
- ・近年の大阪の教育改革
- ・大阪の学校の良いところ

## ●その1—学力の樹について

根⇒意欲・関心・態度（学びに向かう力） 幹⇒思考・判断

葉⇒知識・技能 根の学力が大切

根と幹の一部は見えない学力・葉と幹の一部は見える学力

## ●非認知能力は根っこ・学力は認知能力

- ・学力向上へは①自尊感情、②学習習慣、③目的意識が大切

## ●国際標準からすると大阪の教育は先駆けてやっている

- ・家庭との関わり、地域連携については、大阪は、いち早くやっていた。
- ・基礎学力保障のためのシステムとしては、学習習慣が大切である。

## ◎総合教務必携、学級日誌について

各校での利用は減少傾向にあるが、毎年、教育課題部では、総合教務必携、学級日誌の検討と発注を行ってきた。

## 令和 2 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

### 第 5 回 評議員会

令和 2 年 11 月 12 日 (木) 14:30~

於: 大阪市教育センター

- (1) 全市研究発表会について
- (2) 年間計画について
- (3) 研究集録『研究の歩み』『会報』について
- (4) その他
  - ① 小中一貫教育委員会実施について
  - ② 会計事務連絡
  - ③ 連絡事項

### 第 6 回 評議員会

令和 3 年 1 月 29 日 (金)

(紙面上で実施)

- (1) 本年度のまとめ
- (2) 本年度会計について
- (3) その他
  - ① 来年度の日程について
  - ② 中教研会報について
  - ③ ホームページについて
  - ④ 本部役員選考委員会について
  - ⑤ その他

## 令和 3 年度 大阪市立中学校教育研究会 組織改選等について (予定)

目 程	内 容	目 程	内 容
3月 下 旬	○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付	5月 上 旬	○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当及び専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 (副部長は 2~3 名程度、専門委員は各ブロックに 3 名程度)
4月 9 日(金)	○各学校において「部門別会員」を確認	4月 16 日(金)	○各学校より部門別会員名簿を書記に提出 ○本部役員選考委員会による本部役員の選考
		5月 中 旬 ( 5月 下 旬	①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 ※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。 ※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。 ②ブロックの研究主題を検討・決定する。⇒書記に送付
4月 21 日(水)	○本部役員の指名、全体会の案内状を送付	5月 26 日(水)	○中学校教育研究会全体会 ※本部役員の選出 ○各研究部 ・専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当を選出する。⇒書記に送付 ・研究主題等を決定する。⇒書記に送付
4月 21 日(水) 4月 28 日(水)	○書記より、各学校の部門別会員名簿を 17 部門の部長に送付		
4月 中 旬 ( 4月 下 旬	○4 つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付 ○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿 ⇒ 書記に送付 ○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡 ○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整	6月 中 旬	○各ブロック ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

## 令和 3 年度の日程

中教研全体会 … 5 月 26 日 (水)

全体研修会 … 11 月 11 日 (木)

全市研究発表会 … 10 月 13 日 (水)

(8 月 27 日(金)ブロック研究発表会 実施の基準日)

# 令和 2 年度 大阪市立中学校教育研究会・全体研修会

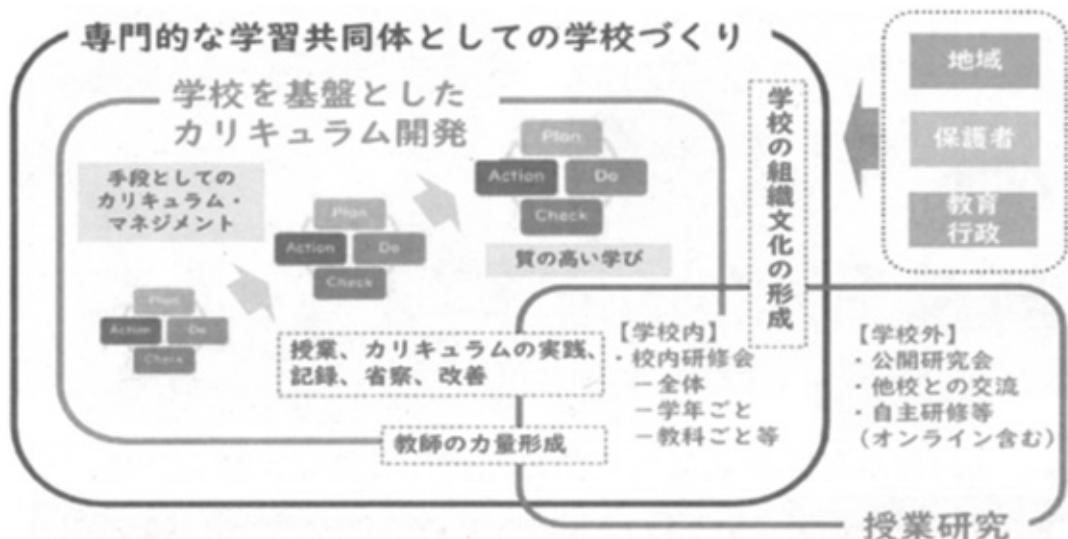
令和 2 年 11 月 12 日 (木)  
於：大阪市教育センター

## 「学びの質」を高めるカリキュラム・マネジメントの進め方

— 新学習指導要領全面実施に向けて、今すべきことを構想する —

大阪市立大学 准教授 島 田 希

### 1. 学びの質をいかに捉えるか



- ①何のために学ぶかを子どもが実感できているか。
  - ②教科等の本質と育てたい資質・能力に迫れているか。
  - ③子どもが判断し、選択する余地があるか。
- ①～③を共有する場として授業研究や校内研修会が必要となる。

### 2. 学びの質をカリキュラムという観点からどう担保するか

#### —カリキュラムの可視化と指導の重点化（見える化）

カリキュラム・マネジメントとは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことである。

- ①生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと
  - ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
  - ③教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保すること
- \* ①～③は目的に迫るための手段として位置づく。

- ・指導の重点化を実現するための工夫
  - どこに重きを置くか、何に挑戦するかを考える。
  - 校内研修会等を実施し、共通理解することが大切である。
- ・教科横断的な視点を持って
  - 教科をこえての交流は難しいが、学校として1つのテーマを設定することが効果的である。
- ・データに基づいた教育課程を編成
  - 学習指導要領や他校の実践等を参考に考える。
- ・地域と連携し、教育に必要な人材・資源を外部に求める
  - 外部からの刺激を受け続ける。

### 3. 校内研修をどう企画・運営するか

#### ①研究テーマの設定

教科にわかれている中学校では、テーマをどのように決めるかが特に大切である。

#### ②研究テーマに即して全校的に展開

各教科等の特色をふまえつつ研究、テーマに向かって取り組む。

#### ③授業研究の効果的な取り組み

中学校では、学校として1つの研究テーマを設定することが有効である。

#### ④授業研究のための全校的な組織を設置

指導案を教科会・学年会・全教職員で検討する。

日本の学校においては、カリキュラムよりも授業に、教育内容よりも教育方法に意識が向く傾向にある。

→カリキュラムの改善、創造と結びついた校内研修や授業研究へ転換する。

### 4. 管理職やミドルリーダーの果たすべき役割

- ①実践的リーダーの戦略的指名
- ②教師間の情報共有・理解を促す仕組みづくり
- ③理論とモデルの獲得
- ④リソースの確保と活用
- ⑤カリキュラムの系統性・発展性の検討・助言
- ⑥成果発表の促進
- ⑦研究指定等への挑戦と活用
- ⑧教育行政との関係構築



### 5. 取り組みの継続・発展のためには

- ・研究推進文化の存在（地域・学校）の共有
- ・管理職のリーダーシップの充実
- ・実践的リーダーの活躍

個々ではなく、全体で共有していく。クラウドなどオンライン上のスペースでの共有、ノウハウが使える事例集など研究紀要を残し、継続していくことが鍵となる。